

人と森をつなぐ情報誌

林野

RINYA



2024 No.205

特集

レクリエーションの森へ出かけよう!!



令和6年 緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰



受賞者
紹介

緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰とは？

緑化推進運動の実施について、顕著な功績のあった個人又は団体に対し、内閣総理大臣が表彰を行うものです。令和6年は13の個人・団体が受賞されました。本誌では毎号、受賞者の方々をご紹介します。

ふくだ たまこ
福田 珠子氏 (東京都青梅市)



福田氏は、平成10年から所有林の経営に取り組むとともに、森林を活かした幼児保育に早くから着目し、体験教室の開催等を通じて地域の森林環境教育や木育を牽引してきました。また、地元女性林業研究グループの会長として草木染体験講座等を開催するとともに、全国組織の会長等を歴任するなど、林業研究活動に尽力しています。さらに、平成13年からは、武蔵野市等との協定により、所有林を自然体験フィールドとして提供し「森の市民講座」を運営・指導するなど、林業や緑化に関する普及啓発に幅広く貢献しています。



市民への森の解説



草木染体験講座

過去の受賞者については林野庁ウェブサイトをご覧ください。

https://www.rinya.maff.go.jp/j/sanson_ryokka/hyosyo/index.html



人と森をつなぐ情報誌



2024
No.205

表紙の写真：ミヤマキリシマと放牧牛
(長崎森林管理署田代原風致探勝林)

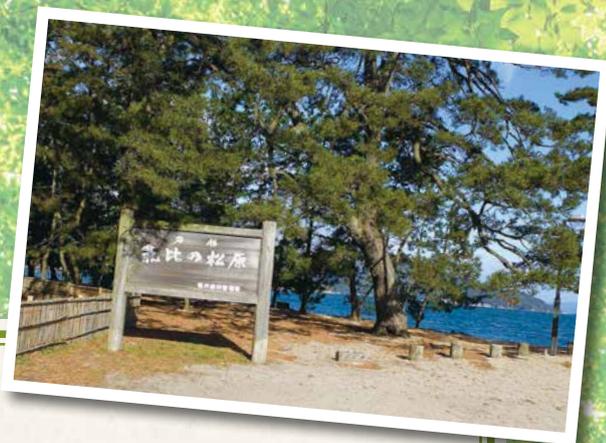
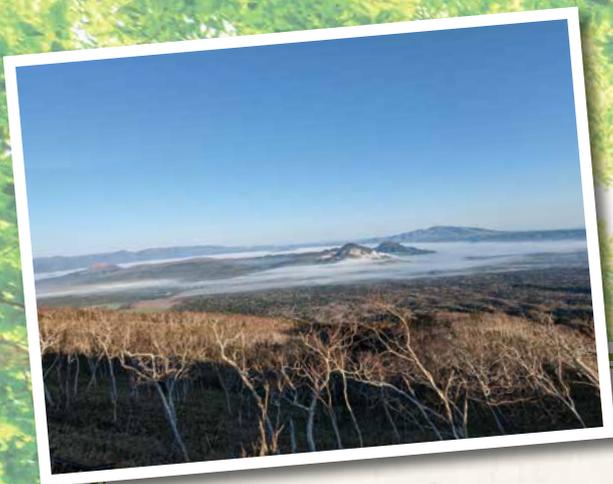
webアンケートにご協力をお願いします!

<https://www.contactus.maff.go.jp/rinya/form/kouhou/202404.html>



Contents

- 3 **特集** 「レクリエーションの森」へ出かけよう!
- 8 **TOPICS 01** 2023年の木材輸入実績について
- 10 **TOPICS 02** みどりの月間
- 11 **TOPICS 03** 全国がんばる林業高校生表彰
- 12 **建築物木材利用促進協定の締結企業の紹介**
建設業界の脱炭素社会実現に向けた店舗をはじめとした木造大規模建築物の推進
- 14 **フォレスター(森林総合監理士)活動書記** 地域の主要産業となる林業の再興を目指して
- 16 **国有林野事業の取組** 長野県木曽地域における高齢級人工林ヒノキのブランド化
- 18 **TOPICS 04** ベトナムにおける持続可能な木材利用の促進プロジェクトの成果
- 19 **みどりの大使が行く!** 山梨県での視察



特集 レクリエーションの森 へ出かけよう!!

日本の国土の大部分は、豊かな森林につつまれています。
林野庁では、みなさまに広く森林に親しんでいただけるよう、優れた自然景観を持ち、森林浴や自然観察など自然とのふれあいに適した国有林を「レクリエーションの森」に設定しています。
その中から特にお薦めする7箇所を、今月号と9月号の2回に分けてご紹介します。

※記事で紹介した施設やイベントの営業・開催状況については、事前に主催者のHP等でご確認ください。

お出かけできないときは、
WEBサイトで楽しんでみませんか？

レクリエーションの森のうち、特に景観が優れた93箇所を『日本美しい森 お薦め国有林』に選定しており、こちらからご覧になれます。

▶レクリエーションの森：林野庁



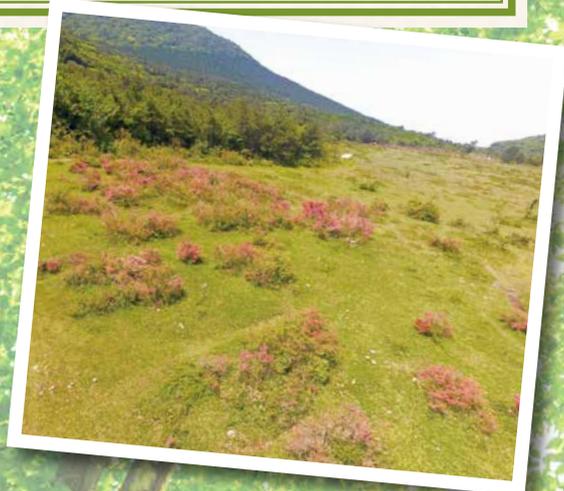
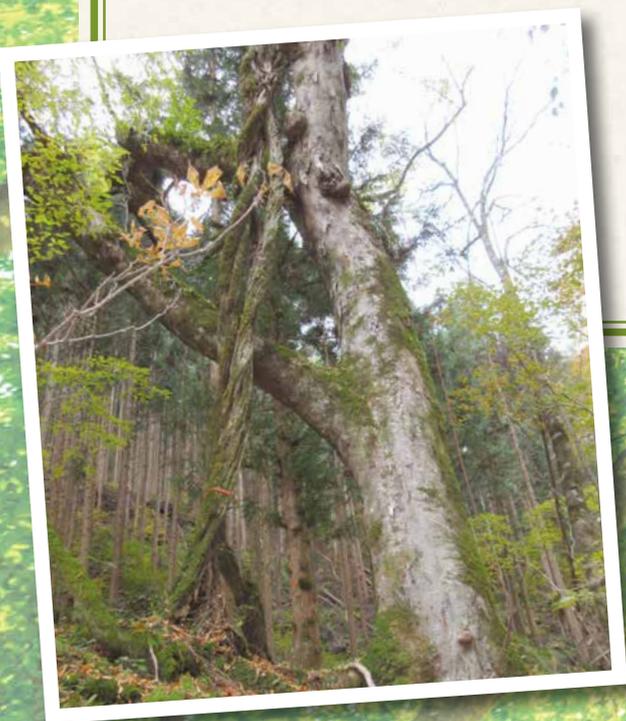
ドローンによる空撮映像はこちらをご覧ください。

▶ドローン空撮映像：林野庁



写真

左上：北海道局／藻琴山自然休養林(北海道) 右上：近畿中国局／松原風景林(福井県)
左下：四国局／小田深山溪谷風景林(愛媛県) 右下：九州局／田代原風致探勝林(長崎県)



藻琴山自然休養林

北海道大空町・小清水町・美幌町 ※弟子屈町はレク森エリア外

東北海道が全部見える？ 家族みんなで登れてぐるり360°の 眺望と雲海は息をのむ絶景！

概要

北海道東部のオホーツク海から30km程度内陸に位置する^{もことやま}藻琴山は、^{おおぞら}大空町・^{こしみず}小清水町・^{びほろ}美幌町・^{てしかが}弟子屈町の4町にまたがり、「北海道の百名山」に選ばれています。標高は約1,000m。山頂からは、眼下に日本最大のカルデラ湖である^{くつしやろ}屈斜路湖を見下ろし、遠景には阿寒摩周国立公園の^{おあかん}硫黄山や雄阿寒岳、大雪山国立公園の大雪山系、知床国立公園の知床連山などの壮大な景観が一望できます。自然豊かで風光明媚な山として名高く、その懐に位置する藻琴山自然休養林は、全域が阿寒摩周国立公園の特別地域に指定されています。

楽しみ方

初心者やお子様でも気軽にトレッキングを楽しめます。また近くには、レストハウスやキャンプ場などもあります。

初夏から秋にかけて条件の良い早朝には屈斜路湖カルデラに広がる大雲海を見ることができます。豊富な植物群落や野生動物を観察でき、季節ごと、時間帯ごとに刻々と表情を変える様々な景観はまさに圧巻です。

代表的な登山ルートを2つ紹介します。

小清水コース

小清水町の「ハイランド小清水725」から登る、1時間程度の軽登山コースです。ハイマツのトンネルのような登山道を抜け、標高940mを過ぎるとゴジラの背中のような屏風岩があります。

東藻琴コース

1時間ほどの登山コースで、途中には、ほのかに甘みを帯びた名水「銀嶺水」が湧き出ており、乾いた喉を潤してくれます。



銀嶺水



藻琴山山頂より屈斜路湖を望む

アクセス

小清水コース 登山口まで

女満別空港から35km（車で約1時間30分）
JR川湯温泉駅(弟子屈町)から17km（車で約40分）

東藻琴コース 登山口まで

女満別空港から32km（車で約1時間30分）
※いずれも公共交通機関の運行はありません。

参考URL

小清水町観光情報 藻琴山

<https://www.town.koshimizu.hokkaido.jp/sightseeing/detail/00007016.html>



NPO法人オホーツク大空町観光協会 藻琴山

https://ooz-kankou.com/01kankou/01kankou_mokotoyama/



川湯ビジターセンター ハイランド小清水725

<https://www.kawayu-eco-museum.com/highlandkoshimizu725/>



北海道森林管理局 藻琴山自然休養林

https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/policy/system/rekumori/sizen_kyuuyourin/mokotoyama/index.html



松原風景林

福井県敦賀市

クロマツとアカマツの織りなす

はくしゃせいしょう

白砂青松の松原と

こんぺき

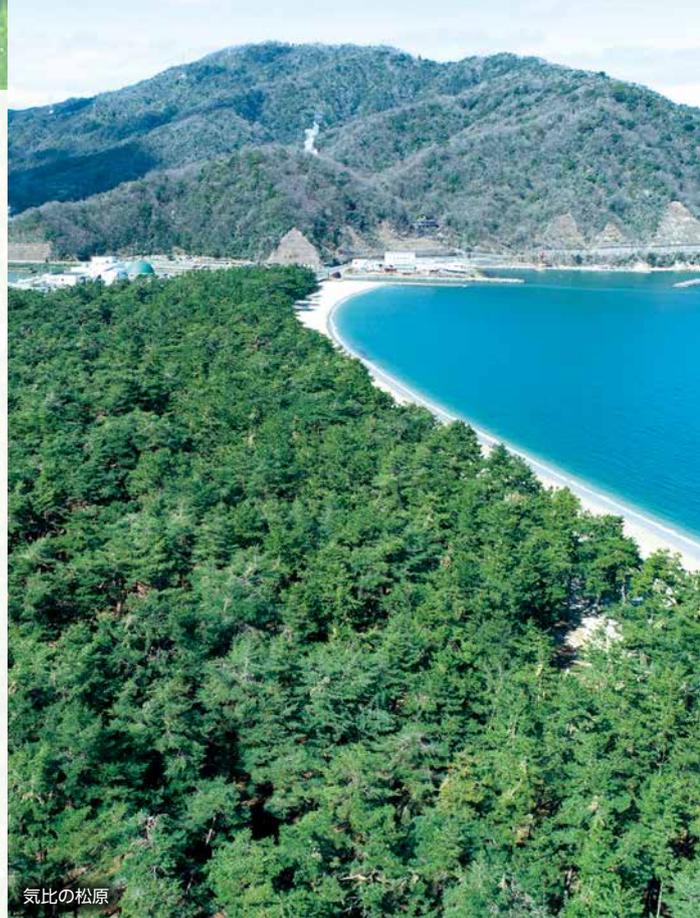
紺碧の日本海を満喫

概要

白砂青松のコントラストが印象的な松原風景林は、敦賀湾に面し東西約1 km、南北400 m幅の高低差のない風光明媚な松林で、広く一般的には「気比の松原」という名称で観光客や地元住民に親しまれるとともに、市街地を潮害から守る保安林として住民の生活に役立っています。

気比の松原は、虹の松原(佐賀県)、三保の松原(静岡県)と並び、日本三大松原の一つで、日本の白砂青松100選や日本の自然100選に選ばれ、さらに国の名勝や若狭湾国定公園にも指定されています。

また、その昔、聖武天皇の時代に異賊が攻め寄せてきた時、敦賀の地は突如震動し一夜にして数千の松が浜辺に出現し、気比神宮の使鳥である白鷺の大群が松の木の上に多数とまった。異賊にはこれが数万の軍勢の旗に見えて、恐れをなして退却したという伝説もあります。



気比の松原

アクセス



公共交通機関の場合

JR敦賀駅→(コミュニティバス「松原線」:約12分)→「気比の松原」バス停
JR敦賀駅→(「ぐるっと敦賀周遊バス」:約15分)→「松原海岸」バス停



自動車の場合

北陸自動車道 敦賀IC→一般道:約10分→松原風景林駐車場(無料。ただし、海水浴シーズンには有料となる場合があります。)

参考URL

敦賀観光協会

<https://tsuruga-kanko.jp/>

敦賀商工会議所女性会(波音ハンモック)

<https://tsuruga-joseikai.com/namioto-hammock>



楽しみ方

アップダウンのない林内は、一年を通してウォーキングや散策の場として多くの方々に利用されています。

夏には海水浴場が開設される他、毎年8月には「とうろう流しと花火大会」が県内屈指の規模で盛大に開催されます。また、秋口には波音を聞きながら、美しい夕日や星空を眺めるイベント「波音ハンモック」が開催されています。



とうろう流し(敦賀観光協会提供)



波音ハンモック(敦賀商工会議所女性会提供)

小田深山溪谷風景林

愛媛県内子町

いつ来ても楽しめる自然豊かな
溪谷で、日常の煩わしさを忘れる
心穏やかなひと時を！

概要

小田深山溪谷風景林は、愛媛県内子町の山間部に位置する、土佐湾に注ぐ仁淀川水系源流域のひとつで、標高は700mから1,320m、溪谷本流は約10kmにも及びます。

樹齢100年を優に超えるモミ、ツガ、カエデ等の天然林に覆われた溪谷は、初夏の新緑や秋の紅葉に映え、風光明媚な素晴らしい景色が魅力となっています。

また、一部地域は、昭和39年に四国カルスト県立自然公園に指定されています。

楽しみ方

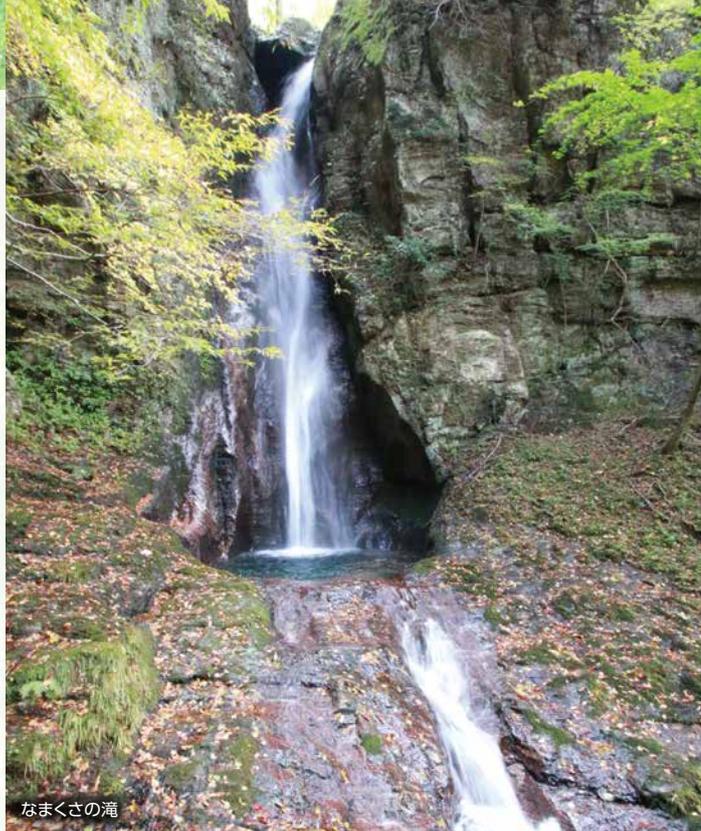
周辺には遊歩道が整備されており、四季折々の溪谷美を感じながらのハイキングや、澄んだ溪流での「アマゴ」釣りを楽しむことができます(溪流釣りには、面河川漁協の鑑札が必要です。)

また、近辺に小田深山溪谷キャンプ場やスキー場があり、夏はキャンプやボート遊び、冬はスキーなど年間を通じてアウトドアを楽しめます。

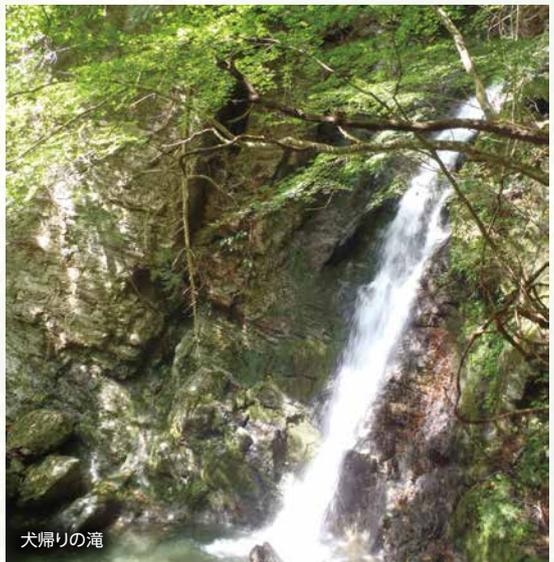
毎年夏休みには、スキー場のゲレンデで「ワンツーツリーフォレスト」という林業学習型アウトドアイベントが開催されており、林業機械試乗、ドローン操作や木工など様々な体験ができます。



安芸貞淵



なまくさの滝



犬帰りの滝

アクセス

松山方面より

内子五十崎ICから車で約1時間

高知方面より

高知市内から久万高原町(柳谷)経由。車で約2時間10分

参考URL

内子町観光サイト

<https://www.we-love-uchiko.jp/spot/odamiyama/>



ワンツーツリーフォレスト実行委員会

<https://www.1234est.com/>



田代原風致探勝林

長崎県雲仙市

ミヤマキリシマの 咲く放牧草原

概要

田代原風致探勝林は、雲仙市の国見町と千々石町の境界にあたる奥雲仙と呼ばれる地域にあり、日本初の国立公園（雲仙天草国立公園、1934年指定）内に位置しています。三方を九千部岳（1062m）、吾妻岳（970m）、烏甲岳（822m）に囲まれるこの風致探勝林には、江戸時代から続く島原半島唯一の放牧地が残されており、NPO法人「奥雲仙の自然を守る会」や自治体等による牛の世話や草原の手入れが行われています。春に風致探勝林を一望すると、そこには美しいミヤマキリシマ（注）と放牧牛がくつろぐ景色が広がっています。

楽しみ方

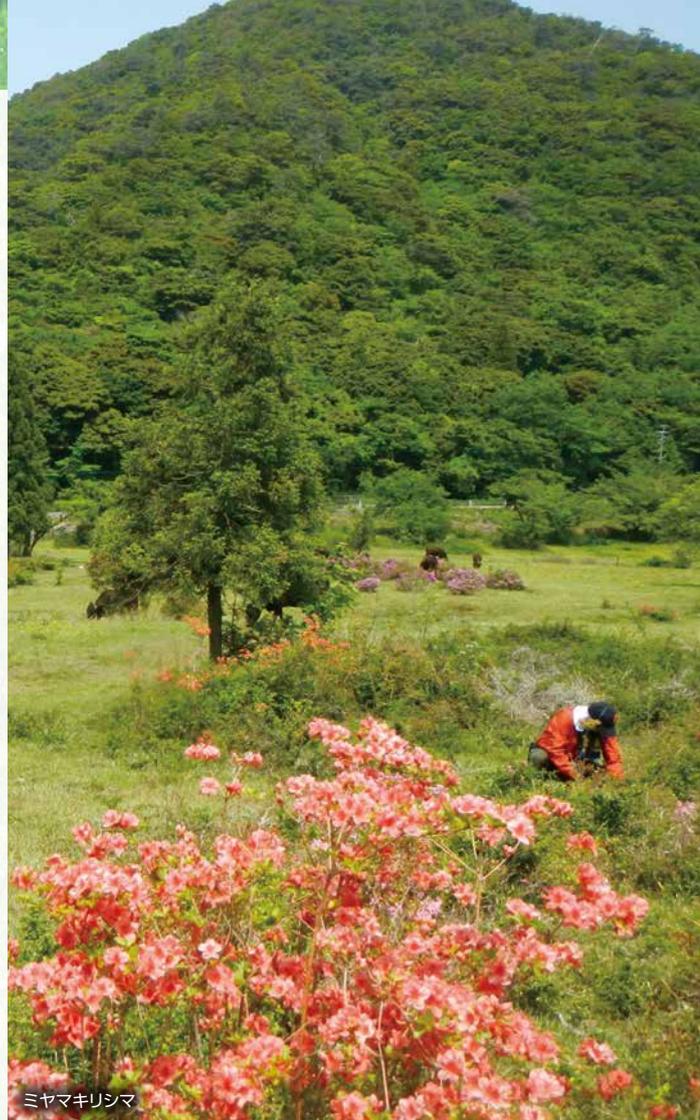
4月下旬頃から徐々に咲き始めるミヤマキリシマは、5月のゴールデンウィークに見頃を迎え、放牧牛のいる草原の風景とともに楽しむことができます。また、朝には霧がたちこめることが多く、幻想的な風景も楽しむことができます。近接地には田代原野営場があり、夏には涼しい中キャンプを満喫できます。さらに、キャンプ場から九千部岳へ続く九州自然歩道では、7月頃には、吾妻岳の山腹にヤマボウシの白い葉を眺望しながらハイキングを楽しむことができます。車で20～30分ほどの距離に雲仙温泉街と小浜温泉街もあり、温泉に入り1日の疲れを癒すことができます。



田代原風致探勝林



田代原野営場



ミヤマキリシマ

注：九州地方の火山（主に高山帯）に固有なツツジ類。葉などに毒があり、放牧地では牛が食べないため優占種として群落を形成しています。国の天然記念物で長崎県の花にも指定されています。

アクセス

島原駅から車で約40分 雲仙温泉街から車で約20分
諫早ICから車で約60分 小浜温泉街から車で約30分
多比良港から車で約30分

参考URL

雲仙市観光局
<https://unzen-dmo.com>



雲仙市 田代原野営場
（キャンプ場、トレイルセンター）
<https://www.city.unzen.nagasaki.jp/kiji0032204/index.html>



島原半島情報WEBサイト
<https://www.shimakanren.com>



長崎県 九州自然歩道
<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/kurashi-kankyo/shizenkankyo-doshokubutsu/riyoukanri/naturetrail/>



2023年の 木材輸入実績について

2023年の我が国の木材輸入は、2022年後半から続く国内の住宅需要の停滞が影響し、大きく減少しました。

本稿では、世界の動向を概観した上で、2023年における我が国の品目別の輸入実績を紹介します。

1 世界の動向

世界の主要市場における木材価格は、過去3年間と比較し、新型コロナウイルスのパンデミック以前の水準近くまで下落しました。北米市場では、金利上昇の影響を受け、住宅需要が減速しましたが、年末にかけて住宅着工戸数が回復基調となりました。欧州市場では、金利上昇の影響等で建築需要が低迷、中国市場では、不動産不況等により景気が停滞しました。

2 我が国の木材輸入実績

(1) 国別の輸入額
2023年の木材輸入額（HS44類）は、前年より20%減少し、1兆3994億円となりました。国別では、ベトナムが前年

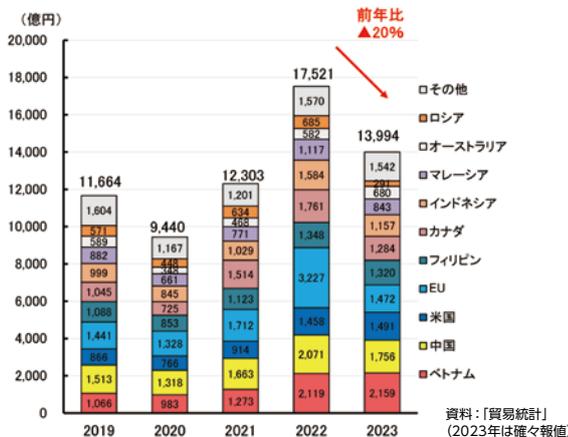


図1 木材輸入額の推移

比で2%増の2159億円で1位、中国が同15%減の1756億円で2位、米国が同2%増の1491億円で3位、次いで、EUが同54%減の1472億円となりました。EUは、製材・集成材などの輸入額が大幅に減少したことで、前年の1位から4位に後退しました。(図1)。

(2) 丸太

2023年の丸太輸入量は、前年比で19%減の202万m³となりました。国別では、米国(同29%)の丸太は、主に合板用で、日本国内の合板メーカーの減産により同17%減の58万m³となりました。さらに、NZ(同12%)が、産地価格の上昇と円安

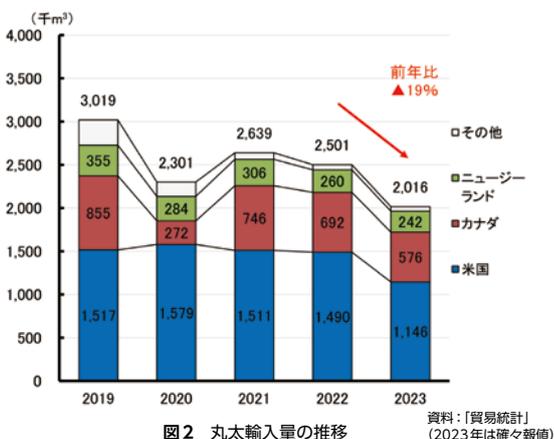


図2 丸太輸入量の推移

(3) 製材

2023年の製材輸入量は、2022年から続いていた過剰在庫の調整、住宅需要の減少、円安の影響、国産材への転換等により、前年比で32%減の333万m³となりました。国別では、EU(シニア…49%)が同36%減の164万m³、カナダ(同23%)が同19%減の76万m³、ロシア(同14%)が同40%減の47万m³となりました。(図3)。

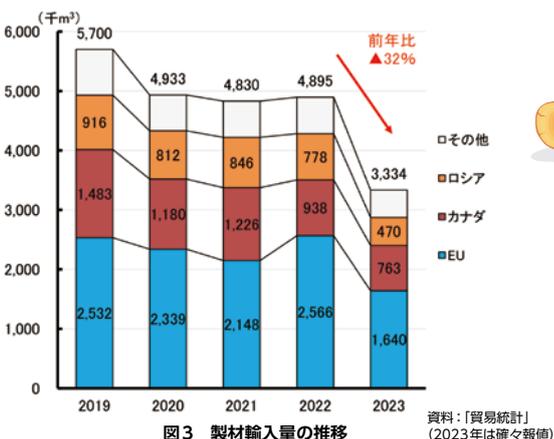


図3 製材輸入量の推移





※記述の出典等については、林野庁ウェブサイトに掲載した「2023年の木材輸入実績」をご確認下さい
 (URL : https://www.rinya.maff.go.jp/j/boutai/attach/pdf/mokuzai_yunyu_genjou-31.pdf)

(4) 合板

2023年の合板輸入量は、前年比で28%減の140万m³となりました。国別では、インドネシア(シェア:39%)は同29%減の54万m³、マレーシア(同38%)は同29%減の53万m³となりました。いずれも、需要の停滞に加え、円安の影響等により輸入量が大幅に減少しました。また、ベトナム(同13%)は同4%減の18万m³、中国(同10%)は同42%減の14万m³となりました(図4)。

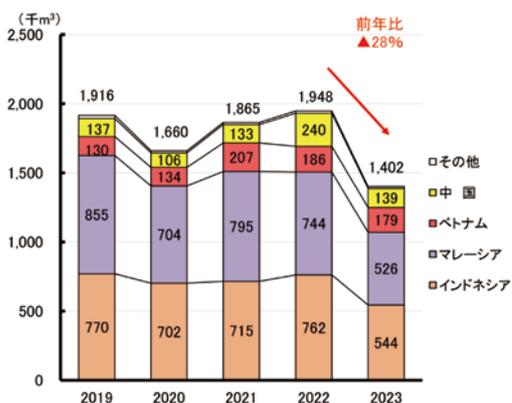


図4 合板輸入量の推移
 資料:「貿易統計」(2023年は確々報値)

(5) 集成材

2023年の集成材輸入量も、製材と同様に、2022年夏から続いていた過剰在庫の調整、住宅需要の減少、円安の影響、国産材への転換等により、前年比で37%減の65万m³となりました。国別では、EU(シェア:79%)は同39%減の50万m³、EU加盟国別では、フィンランドが同37%

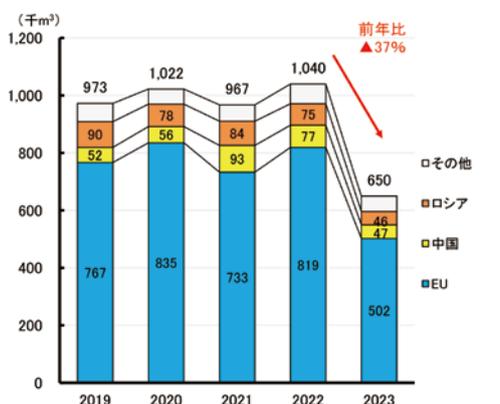


図5 集成材輸入量の推移
 資料:「貿易統計」(2023年は確々報値)

減の24万m³、ルーマニアが同47%減の8万m³、オーストリアが43%減の同7万m³となりました。また、中国(シェア:7%)は同39%減の5万m³、ロシア(同7%)は同38%減の5万m³となりました(図5)。

(6) 木質ペレット

製材、合板等が住宅需要の停滞等により、軒並み輸入量を減らした一方で、2023年の木質ペレット輸入量は、前年比で32%増の580万トンとなりました。国別では、ベトナム(シェア:45%)が同9%増の260万トン、カナダ(同27%)が同16%増の158万トンとなりました。また、米国は(同22%)は、同国メーカーと長期契約している木質ペレット発電所の稼働率が上がってきたことなどから、同317%と大幅に増加し、1,263万トンとなりました(図6)。

3 おわりに

2023年の木材輸入量を品目別に見ると、主に住宅など建築向けの丸太、製材、合板及び集成材が減少した一方で、木質バイオマス燃料用の木質ペレットの輸入が増加しました。林野庁では、引き続き、木材の輸入動向に関する情報を積極的に提供してまいります。

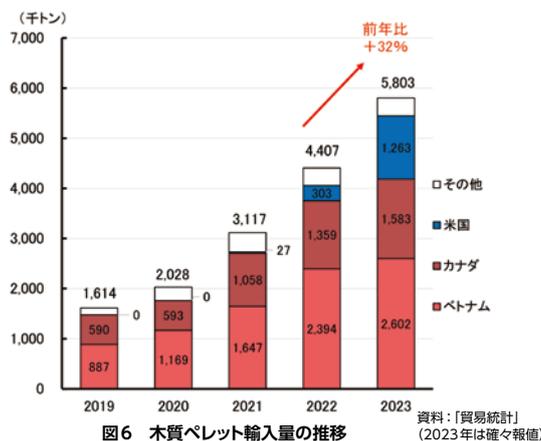


図6 木質ペレット輸入量の推移
 資料:「貿易統計」(2023年は確々報値)

令和6年

みどりの月間



毎年4月15日から5月14日は「みどりの月間」です。月間中は、多くの方々に森林や自然とふれあい、植樹活動に取り組んでいただけるよう、様々なイベントが開催されるほか、緑の募金運動が重点的に実施されます。

緑化行事

例年、「みどりの月間」には、全国で森林などの自然やみどりに触れる行事や、みどりに対する見識を拓げるためのイベントが行われます。詳細については、以下のウェブサイトでご確認ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/ryokka/gekkan/>

また、みどりの感謝祭では、今回初めて、東京都八王子市高尾町にある「599ミュージアム」において、5月11日～12日に「みどりとふれあうフェスティバル」を開催して、森や木材とふれあうイベントなどを行います。詳細はプレスリリースしますので、林野庁ウェブサイトからご確認ください。



緑の募金

「みどりの月間」を「緑の募金全国一斉強調月間」として、春の「緑の募金運動」が展開されます。

緑の募金は「寄付」という形を通して、国内外で行われる植樹や間伐などの森林整備や緑化を行うボランティア活動、森林を活用した子供たちへの森林環境教育等を支援するものです。また、災害による被災地域の復興支援を目的とした森林整備や緑化等にも使われています。

ぜひ、募金への御協力をお願いいたします。



<https://www.green.or.jp/bokin/>



安全な間伐作業のための講習



里山の保全作業体験



親子参加での植樹



海岸林の保育作業の指導と防災学習



小学校と連携した植樹活動(カンボジア王国)



住民参加の森林再生活動(タンザニア連合共和国)

写真提供：国土緑化推進機構

全国がんばる林業高校生表彰

「全国がんばる林業高校生表彰」は、将来を担う人材として、日々森林・林業に関する社会活動や研究などに取り組んでいる高校生の取組を応援するため、全国林業研究グループ連絡協議会が令和2年度から林野庁補助事業を活用し、開催しています。

本表彰には、資格取得や社会活動への参画状況を多面的に評価する「学校推薦部門」と、地域の森林・林業の振興や課題解決を目指し取り組んでいる意欲的な活動や研究を評価する「地域活動・研究部門」の2部門があります。

令和5年度の表彰において、学校推薦部門では熊本県立矢部高等学校の佐伯ふみさんが、地域活動・研究部門では高知県立高知農業高等学校の森林総合科森のめぐみクラブ（専門部）（岡慎之助さん外8名）が最優秀賞である林野庁長官賞を受賞しました。

佐伯さんは取組内容のみならず聞きやすく分かりやすい優れたプレゼンテーションの技術、森のめぐみクラブはメンバーそれぞれが自ら積極的に外部の専門家に学びながら目標に沿って取り組んだことが評価されました。

④

学校推薦部門

熊本県立矢部高等学校 ^{さいき}佐伯ふみさん(2年生)

活動内容: 木製の認知症予防パズルの作成・普及を通じた木育活動、研究成果の発表等

取得資格: アグリマイスター顕彰制度のゴールド認定、測量士補等

受賞歴: 第74回日本学校農業クラブ全国大会農業鑑定競技会（森林）優秀賞受賞等



(林野庁安高研究指導課長、佐伯さん)

④

地域活動・研究部門

高知県立高知農業高等学校 **森林総合科 森のめぐみクラブ(専門部)**

代表: ^{おかしんのすけ}岡慎之助さん、^{つつかずき}筒井千暉さん、^{なかたしろうご}中田昇吾さん、^{なむらゆうた}谷村裕太さん(3年生)

^{おだにやすゆき}小谷恭之さん、^{みやぎきともえ}宮崎富萌さん、^{もりもたいき}森本大樹さん(2年生)

^{かなおかかなた}片岡湊太さん、^{ほそきたけし}細木勇志さん(1年生)

テーマ: 上穴内演習林のICTを活用した森林情報の整備と法正林に向けた実践

活動内容: ICTによる森林情報の活用と精度の向上、法正林に向けた苗木生産の取組、持続可能な森づくりの3つの目標による実践的な取組の実施。



建設業界の脱炭素社会実現に向けた店舗をはじめとした木造大規模建築物の推進

株式会社MUJ-HOUSE

協定締結の検討経緯

株式会社MUJ-HOUSEは、無印良品の住空間部門の役割を担う事業会社として平成12年（2000年）に設立されました。平成16年（2004年）に無印良品の家の第一弾「木の家」の販売を開始し、これまで約3000棟以上の住宅の建築実績がございます。雑貨や家具など約7000品目を取り扱う無印良品の中で、「無印良品の家」は、その延長線上にある一番大きな生活用品であり、耐久性があって、愛着を持って永く使える、暮らし方に応じて柔軟に使いこなすことができる「暮らしの器」として位置付けております。

第一弾として販売した「木の家」の名前は木造住宅の良さを最大限活かす家というコンセプトから由来しています。また、現在販売している4つの無印良品の家の構造はすべて木造ラーメン構法である「SE構法」を採用しております。一般的な木造住宅で行われている壁量計算とは違い、ビルなどの大規模建築物と同じ手法を取り入れた構造計算を1棟1棟行っており、安全で安心して暮らせる木造空間を提供しています。事実、本年1月1日に発生した令和6年



SE構法



木の家



店舗の木造化イメージ

（2024年）能登半島地震においても、七尾市内に建設した無印良品の家では、間仕切り壁の下地が動いたことで表面の壁紙が1箇所破れた以外に損傷は見当たりませんでした。これらの木材を使った技術、設計および施工実績を、脱炭素社会の実現のため、住宅だけでなく、無印良品店舗の木造化・木質化に活用する取組を始めております。

木造店舗計画におけるコンセプトは、良品計画グループが掲げる「感じ良い暮らし」の実現に向けて、地球環境に配慮した「ZEB」化建築、災害時に地域の方々を支援出来るレジリエンス機能の充実と位置づけ進めています。

無印良品の店舗は、営業時間内であれば人々が自由に訪れることのできる建物であるため、木造建築物の設計、施工に携わる多くの人にとってのベンチマークとなるよう、設計計画を進めるにあたっては、SE構法と準耐火構造大臣認定（一般社団法人JBN・全国工務店協会）の外壁、一般的な折半屋根を採用した大規模木造店舗となっております。

協定に基づく構想の概要

良品計画グループでは、林野庁の掲げる「木材利用（ウッド・チェンジ）促進による、脱炭素社会・持続可能な社会の実現」の趣旨に賛同し、令和5年（2023年）5月、農林水産省と「木材利用拡大に関する建築物木材利用促進協定」を締結しました。MUJ-HOUSEでは、具体的に

2つの構想と3つの取組を目指しております。

構想① 良品計画グループが推進する木造店舗等の整備実現のため、合理的かつ安全な木構造技術、建築物の省エネ等の推進に向けた技術提供を積極的に行う。

構想② 木造店舗等の整備における合法伐採木材の利用を促進するため、合法伐採木材の供給元の開拓等を積極的に行い、合法伐採木材の安定供給等の協力を行うとともに、森林資源の循環利用、ひいては2050年カーボンニュートラルの実現に貢献していく。

取組① 全国での木造店舗等の整備にあたり、あらかじめ供給体制を整え、店舗等の建設で求められる品質、量及び価格の合法伐採木材の供給を適時に行うよう努める。

取組② 木造店舗等の設計施工実績を基に良品計画グループ外への木造店舗の販売活動を強化し、木材の利用促進に努める。

取組③ 木造店舗等に利用した木質部材や供給体制の構築等の取組について、他者による取組の参考となるよう、情報を広く発信する。

協定に基づく取組

協定締結以降、無印良品の木造店舗について2件整備を進めております。

いずれも木造平屋建てとなっており、2物件で合計723㎡の木材を活用いたし

ます。協定に基づく取組として、地元の行政や設計事務所、工務店などを対象に現場見学会や木造耐火セミナーを開催いたします。セミナーにおいては、桜設計集団代表の安井昇氏を招聘し、準耐火木造の納まりに関して現場にてレクチャー、質疑応答を実施し、木造耐火に関する最新関連法規に対応した施工方法などを紹介しております。



令和5年5月の協定締結

今後の抱負

良品計画グループが掲げている5年で10000㎡の木材活用という目標に向け



施工中の木造店舗

て、無印良品木造店舗プロジェクトの推進はもちろんのこと、宿泊施設等店舗以外の用途の大規模木造建築物などを視野に入れて、魅力的な意匠や技術の開発に挑戦していきます。

また、木造耐火に関する法規制とそれに対応する認定工法や技術に関して、常に最新の情報を収集し、それらの発信を強化していきます。

木造店舗の施工現場においては、林業、木造建築業界を盛り上げていくために、地元の林業高校等を現場に招待するなど、若い方々に木材、木造の魅力や働き甲斐を体験できる機会を設けていく所存です。

協定制度への期待

木造建築物の発展は、脱炭素社会実現に向けて重要な要素であることは、周知の事実です。この事実を具体的な数値で評価できる建築物ライフサイクルアセスメント(LCA)を「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律」に組み込むなど、更なる法整備への機運が盛り上がることを期待します。そして、建設業界の脱炭素社会実現に向けて、建物のエンボイドカーボンの見える化が、国内外の企業・投資家にとって建物を選択する際の一つの指標となることが非常に重要と考えています。



地域の主要産業となる林業の再興を目指して

杉本森林総合監理士事務所

杉本 和也

はじめに

私は、奈良県吉野郡天川村で杉本森林総合監理士事務所を営んでいます。天川村からの地域林政アドバイザーの受託をメインに、洞川財産区森林アドバイザー、奈良県林業改良普及協会事務局長、緑の雇用集合研修の講師や奈良県フォレストアーアカデミーの講師など、皆様から色々なお仕事をいただきつつ事務所設立以来5年が経ちました。前職は奈良県庁で林学職として長年勤務させていただき、2019年無事定年退職を迎え、同時に天川村からお誘いをいただき、今の仕事を始めることになりました。森林総合監理士資格は2013年度の制度発足時に取得しましたが、在職中は資格を活かせる場面もなかったため、退職後は自分の発想で地域林業の活性化に取り組みたいと考え、自宅から通えない天川村ですが、村のお誘いを快諾させていただきました。今回はこの天川村での活動を中心に紹介させていただきます。

私の活動する天川村

天川村は紀伊半島のほぼ真ん中で、人口は約1200人、面積は17566ha、そのうち森林面積は17081haで林野率97%、標高441m〜1915m、吉野熊野国立公園が村土の約三分の一を占め、植林できる山地には、ほぼスギ・ヒノキが植栽され、人工林率は約61%となっています。村の西部は大峰連山を中心とした修験道の聖地で、世界遺産「大峯奥駈道」を擁し、山岳景観や清流が際立つ風光明媚な美しい村です。

天川村



【天川村の概要】
人口：約1,200人
面積：17,566ha
森林面積：17,081ha
林野率：97%

林業の衰退と加速する人口流出



大峯奥駈道

村の殆どが森林であり、戦後から高度経済成長期にかけて植林が活発に行われ、昭和の後半まで、保育作業を中心とした林業が村の主要産業となっていました。森林の成長と共に、保育作業が徐々に減少するとともに、近年の木材価格急落の影響を受け、森林所有者の経営意欲が減退し、間伐、枝打ち、伐採・造林などの経営活動や保育への投資も減少し、林業の循環はほぼ断ち切られた形になっています。昭和30年頃には、5600人余り居た村民も、先の見えない林業の低迷が続く中で、多くが村外に働く場を求め、人口の流出が加速し、減少の一端を辿っており、近年は林業従事者(林業退職金共済加入者)が10人を切る状態が続いています。

身の丈にあった林業

新しい時代の林業といえば、集約化を推進し、高性能林業機械で効率的な素材生産や、収穫から製材までを行う大きな産業構



森づくりに取り組む地域おこし協力隊

造の構築を思い浮かべますが、天川村では林業が衰弱し切っており、村内に市場、製材所、大規模事業者も無いことから、直ちに大きな林業に進めない地域の事情があります。事を急ぐと、村内の貴重な森林資源が村外事業者の仕事となり、村にはお金どころか、産業者も残らないで禿山だけが残ることも危惧されます。このため、「森林資源を村の産業にする」「森林の防災や景観形成その他多面的な機能はしっかりと保全する」の2点を基本に据え、地域おこし協力隊などの人材育成から身の丈にあった林業をコツコツ積み上げています。

小さな林業と期待される森づくり

天川村では少しでも森林資源を地域の仕事にしようと、7年前から未利用間伐材を薪として活用する事業を展開しています。村営温浴施設を皮切りに、徐々に薪ボイラーの導入も進み、間伐や丸太の搬出が、確実に現金収入に繋がる小さな林業の一つとして定着しつつあります。また、地場産業に和漢生薬「陀羅尼助丸」の生産があることで、伐採跡地には原料となるキハダを中心とした地域性豊かな広葉樹の森づくりも進めています。キハダは近代医療に不可欠な生薬殺菌成分ベルベリンを多く含み、スギ・ヒノキに比べて収穫までの期間も短いので、収益性の高い資源になると考え、増殖に取り組んでいます。広葉樹の森づくりには、種子採取から苗木の育成まで村内で



未利用間伐材から薪を生産

行うことを基本としており、苗木の生産技術を確立しようと進めています。また、森林資源を全て活用して産業を創出するという観点から、和精油などのアロマ事業の育成にも取り組んでいます。

これらに加え、都市や企業と連携して、「森づくりの活動」そのものを評価していただく取組も進めています。2020年から一般社団法人モア・トゥリーズさんと手を携えながら進めている森づくりの活動も定着し、地域の若者が林業に従事したいという流れも起きてきています。そうした若者の森林整備活動が地球温暖化防止に貢献していることを実感できるよう、面積は大きくありませんがJークレジットを創出する取組も進めています。



種子から育てた広葉樹苗



アロマの抽出



支援企業と進める森づくり

おわりに

私の取組は、素材生産を計画的に進め地域林業を牽引するようなフォロースター活動ではありません。読者の方々が期待された取組ではなかったのではないかと思います。ただ、日本の山村にはそれぞれの地域の事情や特色がありますので、全ての地域で必ずしも林業の効率化を進められる訳ではないのが現実です。最近では森林環境譲与税の活用など地域特性に沿った支援も行われてきていますが、補助事業など多くの支援策は画一的なものが多いと感じます。今後、より地域性を考慮した支援メニューが広がれば、森林総合監理士の活動の幅も広がり、地域の林業に元気が出るようになります。



国有林野事業の
取組

長野県木曽地域における 高年齢人工林ヒノキのブランド化

高年齢人工林ヒノキの10周年を迎えて

中部森林管理局 木曽森林管理署

はじめに

島崎藤村の代表作「夜明け前」の冒頭に「木曽路はすべて山の中である」とあるように、木曽地域は深い山々に囲まれています。その奥地には世界的に見ても貴重な、悠久の時間が育んだ天然の木曽ヒノキをはじめとする温帯性針葉樹林が広がっています。

この木曽ヒノキは、優れた材質を有しており、かつては社寺城郭用として多く利用され、現代においても歴史的・文化的建造物の維持や工芸品等の地場産業の継承・振興に大きな役割を果たしてきました。

一方で、中部森林管理局では、この天然で貴重な木曽ヒノキを保存・復元する取組をはじめとしており、これにより利用に必要な木曽ヒノキの代替材が必要となりました。

そこで、木曽森林管理署（以下、木曽署、南木曽支署を含む）では、管内で生育した80年生以上の良質な人工林ヒノキを「**木曽ひのき**」（注）と銘打ってブランド化するとともに生産に取り組んできました。令和5年度にその取組が10周年を迎えました。

注：**木**は高年齢級、**木**は国有林の略

これまでの取組

これまで、ウェブサイトで記載、チラシの作成・配布、市場でののぼり旗の設置（写真1）、販売時のブランド名の記載・ラベル貼付、丸太への極印表示など認知度向上に向けて積極的にPRを展開してきました。

ブランド材の供給と需要拡大（中部局）



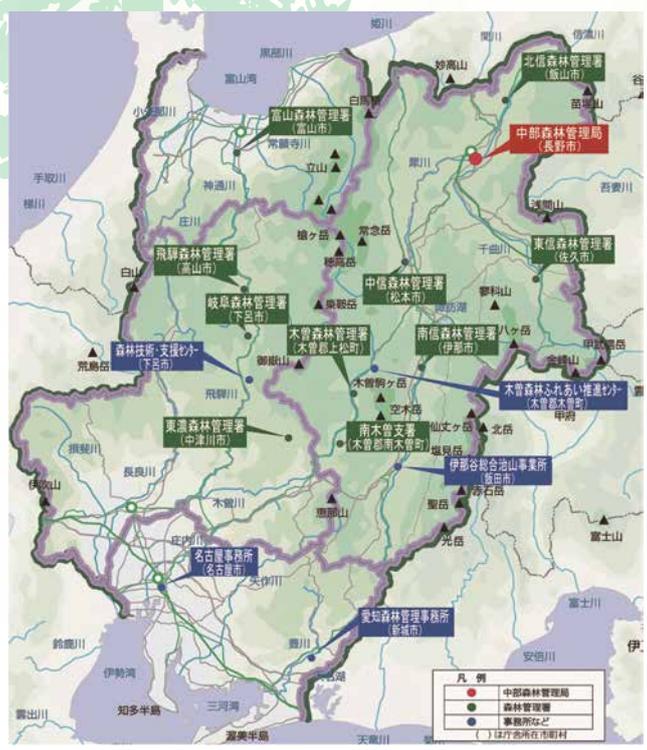
管内概要

- 所在地** 長野県木曽郡上松町正島町1-4-1
- 区域面積** 約155千ha
うち森林面積 144千ha
うち国有林面積 89千ha（※南木曽支署管内含む）
- 関係自治体** 木曽町 上松町 王滝村 木祖村（※南木曽町、大桑村）

木曽森林管理署が所管する国有林は、木曽川の源流域である長野県南西部に位置し、御岳山や木曽駒ヶ岳など3km級の山々に囲まれています。

また、日本三大美林の一つ木曽ヒノキをはじめとする天然林や渓谷が、四季折々に優れた自然景観を創り出し、森林浴発祥の地である赤沢自然休養林では、森林セラピーのほか自然探勝、森林環境教育の場として多くの方々にご利用されています。

さらに、当地域の樹木から生産された木材は、歴史的建造物の修復や伝統工芸品の資材として利用されるなど、高品質材の産地として知られています。



管内図



写真1：市場に設置したブランドのぼり

一方、安定供給を図るため、2019年から東濃森林管理署管内（いわゆる裏木曾地域）で生産する人工林ヒノキをブランド材の対象に加えることにしました。

こうした取組により、木曾署における④木曾ひのき販売量は10年間で約20万m³となり、人工林ヒノキ材販売量の約88%を占めています（図1）。また、平均販売単価は、通常の人工林ヒノキより約25%高値となっており、緻密な年輪と豊かな光沢をもつ高品質材として市場で高く評価されています。

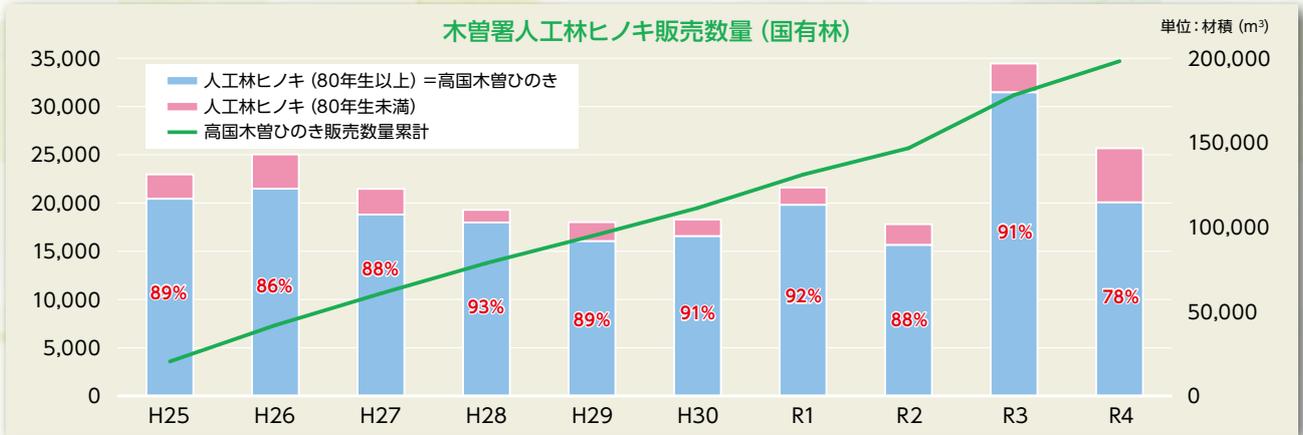


図1 10年間の木曾署人工林ヒノキ販売数量



写真2：講演する鈴木信哉氏の様子

記念シンポジウムを開催

令和5年10月、ブランド化10周年を記念してシンポジウムを開催したところ、業界関係者や地元住民など約200名に参加いただきました。

シンポジウムでは、ブランド化を提唱した鈴木信哉氏（フースジャパン素材流通協同組合理事長、元中部森林管理局局長）からブランド化に至る経緯や今後の課題・展望について（写真2）、④木曾ひのきを活用して木曾町役場庁舎の設計・施工を行った千田友己氏（㈱千田建設設計）から講演いただきました。

また、木曾署の若手職員が取材したブランド材の利用実態の報告動画も紹介しました。

さらに、「木曾ひのきブランド材の今後を見据えて」をテーマに行われたパネルディスカッションでは、学識経験者、木材加工・流通業者、行政より、ブランド化を通じた地域経済の発展の可能性などについて様々な発言がなされ、盛会のうちに終わることができました。

なお、来場者に行ったアンケート結果をブランド発足当時と比較すると、認知度、評価ともに向上していました。特に造作材や木工芸品といった見た目の美しさが求められる資材として購入する業者が増え、品質の良さが高く評価されていることが分かりました。

今後の展望

木曾署における本取組が契機となり、中部局管内では、「信州プレミアムカラマツ」や「段戸」^{たんご}「SAN」など新たなブランド材を創出し、普及の動きへとつながっています。

今後は、更に多くの方々から④木曾ひのきを使っていただくとともに、国有林だけでなく民有林で生産される人工林ヒノキもブランドの対象に追加したり、住宅業界や施主などエンドユーザーへの訴求にも取り組むなど民有林部門や川下業界に対する情報発信力を高め、木曾地域全体の振興に貢献していきたいと考えています。

ベトナムにおける持続可能な 木材利用の促進プロジェクトの成果

—ITTOへの拠出金の活用—

林野庁 木材利用課 木材貿易対策室

林野庁は、国際熱帯木材機関（ITTO）への拠出を通じ、熱帯木材生産国における脱炭素社会の実現に向け、我が国の木材利用拡大の経験を基にした「持続可能な木材利用（Sustainable Wood Use: SWU）」促進プロジェクトを展開しています（本誌2022年3月号トピックス03参照）。

間もなく、第1弾となるベトナムでのプロジェクトが終了見込みです。同国の木材産業は、主に輸入材で家具を製造したり、国内人工林から木材チップを生産し、輸出したりすることで急成長しましたが、国内での木材利用は低調でした。

本プロジェクトでは、木材製品の国内需要を創出するため、①SWUを促進する政策枠組みの改善、②需要創出のための関係者の能力強化を成果目標に設定し、原材料となる人工林の育成を行う小規模生産者（農家）と小規模木材加工業者の組織化やガバナンス向上、彼らによる人工林の長伐期化等に取り組みました。これにより、人工林の経済性と環境機能の向上、木材製品の高付加価値化が期待されます。加えて、建築を学ぶ学生を対象として木材製品デザインコンテストや木材業界でのキャリア形成セミナー等を開催するなど、将来的にSWUを担う人材の育成にも取り組みました。

本プロジェクトの成果として、産官学共同のSWU推進組織が設立されました。今後、上述の小規模生産者・加工業者への支援や木質バイオマス燃料の利用促進について政府に提言していく予定です。

本プロジェクトによる知見や課題は、ITTOにより、近隣国でのプロジェクトからの情報と合わせて分析され、熱帯木材生産国のSWU促進に向けた行動を提言するポリシーブリーフとして発刊されました。

林野庁は、今後もアジアにおけるプロジェクトの展開を支援するとともに、あらゆる機会を捉え、気候変動対応策におけるSWU促進の重要性を発信していきます。



小規模木材加工業者への支援



日本産スギ家屋のモデル展示



POLICY BRIEF

Encouraging greater domestic use of
legal and sustainable tropical wood

Lessons from experiences in Southeast Asia

SWU促進のポリシーブリーフ

ITTOを通じたSWU促進の取組についてはこちら

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/boutai/yunyuu/itto.html>



みどりの大使が行く!

皆さん、こんにちは！
2024ミス日本みどりの大使の安藤きらりです。
3月に山梨県へ、視察に行かせていただきました。林業の流れが理解できるように、川上から川下の順番に見せていただき、大変わかりやすかったです。



2024ミス日本みどりの大使
安藤 きらり

カラマツの苗木生産

まずは、富士吉田市にて苗木生産を行っている明見緑化様を訪れました。巨木に成長している木も、元を辿ると種があります。まず初めにその種を見せていただきました。大きな木の種なので、きつと手のひらくらいのサイズだろうと思っていましたが、実際のカラマツの種は、爪よりも小さくてとても驚きました。そして、種を採取する過程も教えていただきました。カラマツの種は松ぼっくりの隙間から採ることができます。1つの松ぼっくりから全ての種



松ぼっくりから効率的に種を採る

現場で進む林業の機械化

を採るために、水をかけたり温度を変え、更に揉んだり、手作業で種を採る大変さがわかりました。

次に、北杜市大泉町の天女山様にお邪魔しました。こちらでは、造林、伐採、地域材利用、環境保育などを行っています。林業現場では、ドローンや高性能林業機械に触らせていただきました。ドローンは、上空150m程まで飛び、森林の状態を知ることができます。人手で行ってきた資源調査は、ドローンの登場でとても効率的に



高性能な機械の操縦を体験

木材をカツラ剥きに

なったと伺いました。更に高性能林業機械の一つであるフェラーバンチャに乗らせていただきました。普通自動車以外の機械を運転でき大興奮でした。木を運搬するだけでなく、木を切ることもできる高性能の機械、そしてプロの操縦技術を目の前で見ることができました。

その後、山梨県南部町にある南部町森林組合を訪問しました。敷地内には大量の丸太が積み重ねられていて、壮観でした。木の大きさを機械で自動的に判定し、選別する様子や、JAS規格に基づき木の格付けをしている様子を見て、機械化のメリットを感じました。



背の高さまで積み上がる丸太



丸太のカツラ剥きを見学

林業の魅力を発信します

最後に、キーテックの山梨工場にて合板製造の現場を見学しました。驚いたポイントはいくつもありますが、大きな木の丸太を薄い板にするのに「大根のカツラ剥きのように」剥くという表現がとてもわかりやすく、しっくりきました。工場は機械が活躍しており作業の早さに驚きました。カツラ剥きもあつという間に終わり、数えきれないほどある丸太が一瞬にして薄い板に変身しました。

今回の林業視察を通じて、木を守るためにとても多くの人々が関わり、技術を磨き、時間を使っていると再認識しました。これからもみどりの大使として、更に知識を深め、林業というお仕事の魅力を発信していきたいと思います。
林業視察をサポートしてくださった皆様、ありがとうございました！

緑の募金

ご協力を
お願いいたします

国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール
〔文部科学大臣賞〕
原画：玉置 花怜さん

もり まも もり い
森林を守る 森林を活かす

「緑の募金」は、身近な地域の森づくりをはじめ、国内外の森づくりや人づくりなどに大切に活用されています。



緑の募金

ご協力をお願いします

春の新緑シーズン(1月～5月)と秋の紅葉シーズン(9月～10月)の年2回
家庭募金、街頭募金、職場募金、企業募金、学校募金などによって行われています。

緑の募金に関するお問い合わせはこちらまで

公益社団法人 国土緑化推進機構 ☎0120-110-381
ホームページ <https://www.green.or.jp> 電子メールアドレス bokin@green.or.jp

